蟹江町歴史民俗資料館　おうちミュージアム

第19回　蟹江町の鉄道について（答えと解説）

（「水郷蟹江絵はがき」より、1934年（昭和9年）ごろの、昭和初期の蟹江駅（現・JR の蟹江駅）です。）

今回のおうちミュージアムでは、蟹江町の鉄道について紹介します。 写真は1934年（昭和9年）ごろの蟹江駅です。今の蟹江駅と比べると、建物は変わっていますが、線路やプラットホームの位置は変わっていません。気になる人は、見に行ってみましょう。

① 蟹江町には JR関西本線 と 近鉄名古屋線 が通っています。

A. 急行が走っている鉄道線はどっち？

答えは、近鉄名古屋線です。

近鉄名古屋線では、すべての駅に停まる普通だけでなく、停まる駅が少ない順に特急（特別急行）や急行、準急（準急行）が走っています。ちなみに近鉄蟹江駅では、利用する人が増えたため、2002年（平成14年）から急行が停まるようになりました。かつてはJR関西本線でも急行「かすが」が名古屋から奈良まで走っていましたが、2006年（平成18年）に廃止されました。

B. 貨物を運んでいる鉄道線はどっち？

答えは、JR関西本線です。

JR関西本線ではコンテナ車やタンク車など、毎日、たくさんの貨物列車が行き来しています。三重県の四日市港から飛行機の燃料を運ぶ貨物列車も見ることができます。かつては、蟹江町特産のイチジクやウナギが関西や名古屋に運ばれていました。

C.線路の幅が広い鉄道線はどっち？

答えは、近鉄名古屋線です。

近鉄名古屋線の線路の幅は1435mm、JR関西本線の線路の幅は1067mmです。はじめは近鉄名古屋線もJR関西本線と同じ線路の幅でしたが、1959年（昭和34年）の伊勢湾台風被害による2か月間の休業を利用して、前から決まっていた線路の幅を広げる工事を早めて、現在の線路の幅に変えました。このため、特急に乗ると名古屋から大阪まで乗り換えなしで行けるようになりました。

② つぎの鉄道駅をできた順にならべよう。

（※ 写真は今の様子です。建物の新しさではありません。）

ウ（JR）蟹江駅

ア（近鉄）近鉄蟹江駅

イ（近鉄）富吉駅

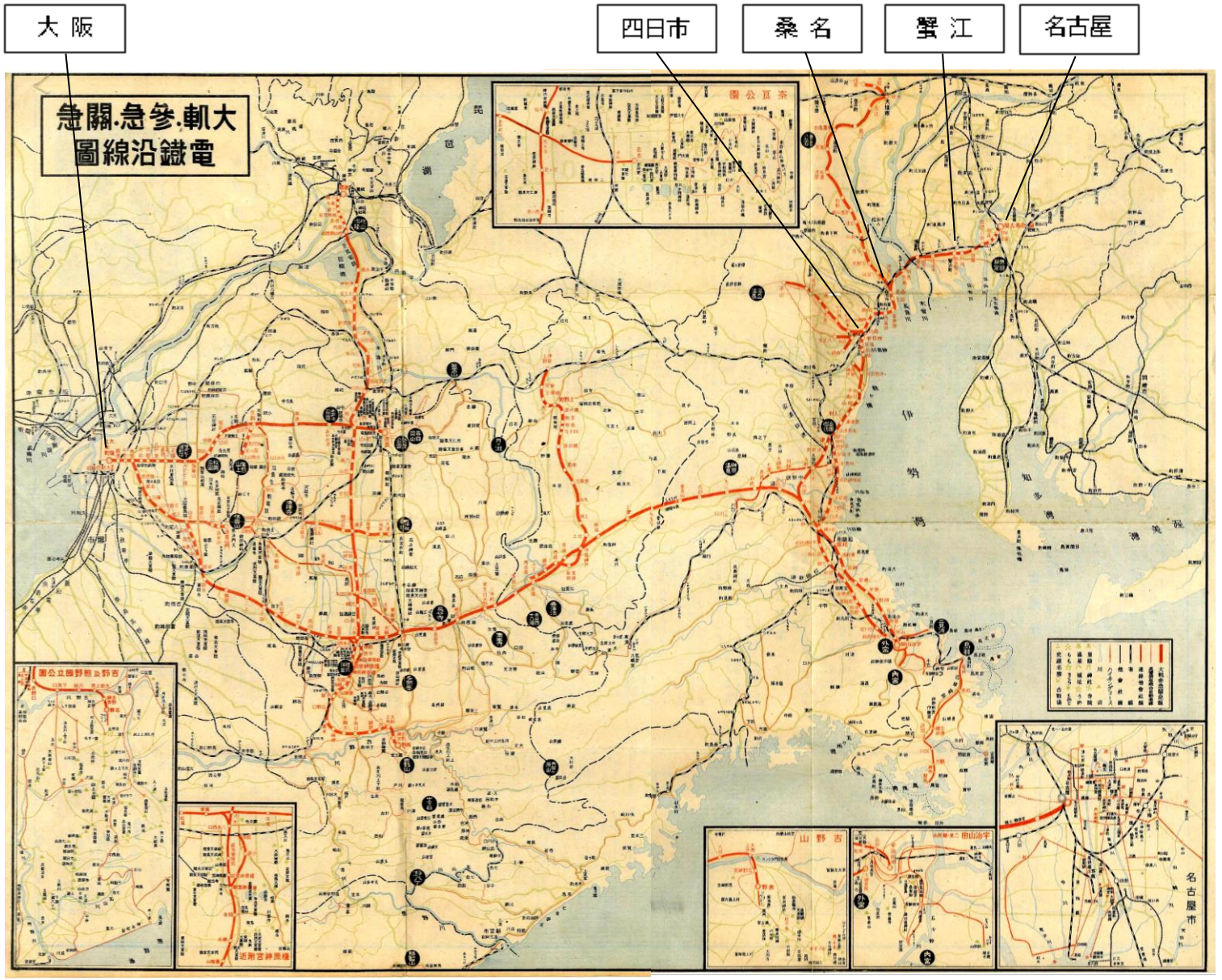
答えは「ウ→ア→イ」です。

JR の蟹江駅（当時は関西鉄道の蟹江駅）は 1895 年（明治 28 年）、近鉄の蟹江駅（当時は関西急行電鉄の蟹江駅）は 1938 年（昭和 13 年）、富吉駅は 1964 年（昭和39年）にできました。

【 蟹江町の鉄道について 】

今から100年以上も昔になる明治の中頃に、大阪から四日市、桑名を通って名古屋まで鉄道を敷く計画が立てられました。当時の蟹江の人々は地域が分断されることや用水の水が流れずに洪水になることなどを理由に反対しました。一方、津島の人々は、毛織物や綿織物などを運ぶために鉄道が敷かれることを望んでいました。結局、大阪と名古屋の間を一番短い距離で結んで人や物を早く運びたいという関西鉄道（現・JR関西本線）の方針もあって蟹江に鉄道が敷かれることとなり、1895年（明治28年）に蟹江駅ができました。

1938年（昭和13年）に、今度は関西急行電鉄（現・近鉄名古屋線）が関西本線よりも南に鉄道を敷いたことで、蟹江町に2つめの駅（現・近鉄蟹江駅）ができました。さらに1964年（昭和39年）には、近鉄の蟹江駅と弥富駅との間に富吉駅ができました。また、1967年（昭和42年）には、富吉車庫もできました。



(「大軌・参急・関急電鉄沿線図」1938年(昭和13年)・表面)

この地図は、1938年(昭和13年)の名古屋と大阪の間にある鉄道線を描いたものです。なくなってしまった鉄道や、まだできていない鉄道を調べてみるのも面白いですね。